

# 学習英和辞典における類義語の語義比較

## 名詞・形容詞編

澤 泰人\*

### A Comparative Study on Word Definitions of Synonymous Nouns and Adjectives in English-Japanese Dictionaries for General Learners

Yasuto Sawa

Abstract: Despite compilers' strenuous efforts up to now, there is still much room for improvement in the ways of defining synonyms in English-Japanese dictionaries for general learners. Needless to say, how word definitions of synonyms should be described varies according to the part of speech of these synonyms. In this paper, several English-Japanese dictionaries are compared for the practical study on the ways of word definitions of synonymous nouns and adjectives for the purpose of presenting better ones that are conducive to the compilation of dictionaries of real value for learners' use.

#### 0. はじめに

中高校生をその対象とする使用者層の中心に据えた学習英和辞典は、現在、多種多様なものが世に送り出されている。しかし、学習者にとって理解しやすくかつ使いやすい、真に高価値の学習英和辞典編纂に向けては、まだまだ改善の余地多しといわざるをえない。例えば、動詞の類義語の語義の記述方法一つを取ってみても、澤(2003)<sup>1)</sup>において、様々な問題点を指摘し、それらに対する改善案を提示した。本稿では、学習英和辞典における、その他の重要品詞の語義記述に関し、同様に各辞典を比較検討しながら問題点を見出し、それに対する改善案を考えることにする。英語の中心は、勿論、動詞と名詞であるが、動詞の場合とは違って、名詞の場合は、文法面と重なるような語義の説明はほとんどないと言ってよい。しかし逆に名詞独自の問題点が出てくるはずであるし、動詞の場合とは違った改善案が必要となるだろう。語義の記述方法は、品詞によって違いがあるので、このことはむしろ当然である。よって、本稿では、他の重要

品詞、すなわち名詞及び形容詞について、それぞれの代表的な類義語どうしを各辞典を対象に実際に比較考察し、学習英和辞典における、よりよい語義記述のあり方を探る。

#### 1. 使用する辞典

本稿では、各学習英和辞典における名詞・形容詞の語義と類義語の比較考察をしていくのであるが、使用する辞典を以下に挙げておく。

『ジーニアス英和辞典 第3版』<sup>2)</sup>

『グランドセンチュリー英和辞典』<sup>3)</sup>

『新グローバル英和辞典 第2版』<sup>4)</sup>

『ユニコン英和辞典』<sup>5)</sup>

『スーパーアンカー英和辞典 第2版』<sup>6)</sup>

動詞の考察の時と同じように、最新の、かつ発行年度がほぼ同時期なものを使用し、同条件での比較評価を行なう。

#### 2. 考察と検討

ここでは、上に挙げた各学習英和辞典に収録されている名詞及び形容詞の記述に関して、次の項目につい

(2003年1月6日 受理)  
宇部工業高等専門学校 英語教室

てどれほど配慮して作成されているかを、実際に比較考察し、問題点を指摘していく。

「各英単語に対し、適切な日本語による語義が記述されていること。類義語については、その語義や用法の違いが適切に説明されていること。」<sup>7)</sup>

類義語の持つ微妙な意味の相違は、英語を外国語として学ぶ者の頭を常に悩ませる問題であり、中高校生にとっては、いっそう深刻な問題である。以下、名詞と形容詞別々に、この問題に関し、『英語類義語活用辞典』<sup>8)</sup>をまず参照し、それぞれの類義語の相違に関する記述を引用する。次に各辞典における記述を実際に比較検討し、問題点を探ることとする。

## 2. 1. 名詞類義語 : journey, trip, tour, travel

まず、名詞の類義語の語義記述の考察を行なう。対象となる語は journey, trip, tour, travel の4語である。これらに対し、一般的な英語学習者、とりわけ中高校生は「旅」や「旅行」といった訳語を機械的に与え、その相違については認識していない場合が多い。しかし実際には、それぞれ微妙な違いがある。以下に『類義語辞典』の説明を引用する。

「journey は日本語の『旅』に当たり、trip は『旅行』に当たる。journey は trip に比べると、ややぼんやりと一般的な旅、それも陸の旅のことである。…trip と journey のもう一つの違いは、trip は出発点に戻ってくるという前提のもとに行う小旅行だという点である…何らかの目的をもって、現在いる場所から別の場所に行き来することを言うのである。tour は修学旅行のように方々予定の地点を見て回ることに重点が置かれる。…trip はまた、米語で幻覚的な、楽しい経験の意にも使う。travel は一つの場所からもう一つの場所に進んで行く動きに重点があるのであって、trip のように出発点に戻るといった前提はない。また、旅行の長短とも無関係である。」<sup>9)</sup>

と、かなり詳しい記述がなされている。さて、学習英和辞典においては、この記述がどのように効率よく集約されているであろうか。限られたスペース内に、学習者にとって必要不可欠な情報を取捨選択し、かつ、理解しやすく記述してあるかどうか、検討の中心となる。

ジーニアス :

journey 主に英 (通例陸上の比較的長い) 旅行、旅 (trip)

trip 旅行 類 trip, travel, tour, journey  
trip 《米》では長・短いずれの旅行にも用いるが、《英》

では短い旅行。travel は通例周遊 [観光] 旅行。《英》では長距離 [外国] 旅行。tour は組織化された計画的な視察 [観光] 旅行。journey は通例陸路の長い旅行に用い、より形式ばった文学的な色合いを持つ。

tour (観光・視察などの) 旅行、周遊旅行 (類 trip)

travel 旅行 長期にわたる (外国) 旅行は複数形で複数扱い。名詞としてはだんだん用いられなくなりつつある。(trip)

センチュリー :

journey 旅、旅行 普通、陸路の長い旅、再び帰ってくることを必ずしも意味しない。travel

trip 旅行、遠足 類語 特に短い旅行をさすことが多い。travel

tour 旅行、周遊 観光、視察などのために各地を回る旅行 ; 小旅行、見物 類語 あちらこちらを見て回る旅行 travel

travel 旅行 (すること) travel は旅行を意味する最も一般的な語であるが、周遊 [観光] 旅行の意味に用いられることが多い。journey, trip, tour

グローバル :

journey 旅、旅行 類語 普通、陸路の長い旅で、再び帰ってくることを必ずしも意味しない。travel

trip 旅行、遠足 類語 特に短い旅行を指すことが多い。travel

tour 周遊、旅行 観光、視察などのために各地を回る旅行 ; 小旅行、見物 類語 観光、視察などのために各地を回る旅行 travel

travel 旅行 (すること) travel は旅行を意味する最も一般的な語であるが、周遊 [観光] 旅行の意味に用いられることが多い。journey, tour, trip

ユニコン :

journey 旅行、旅 (trip 類義語)

trip 旅行 類義語 trip, travel, journey, tour  
共通する意味 : 旅行 (going from one place to another for pleasure or for a particular purpose) trip は通例、時間的にも距離的にも「短い旅行」をさし、出発点へ戻ってくることを含意する。《米》では「長い旅行」にも用いる。travel は広く「旅行」の意を表す。journey は通例、「陸路のかなり長距離の旅行」をさし、必ずしも出発点へ戻るとは含意しない。tour は観光・視察などのために「いくつもの場所を巡る旅行」の意。

tour (観光・商用などの) 旅行、周遊旅行 (trip 類義語)

travel 旅行 (trip 類義語)

アンカー :

journey 旅行、旅 (1) 通例比較的長い旅行に用いる。(2) しばしば「人生」にたとえられる trip, travel

trip 旅行 比較的短期間の旅行をさすことが多い。travel, journey

tour プロフィール ラテン語で「回る」が原義。これから「周遊旅行」「観光旅行」の意味になり... (観光・視察などの) 旅行、周遊旅行; 出張 日本語の「ツアー」は団体旅行を指すが、tour にはその含みはない。

travel (一般に) 旅行(すること) (遠距離の) 旅行、旅 特に《英》では長期の外国旅行をさすことが多い。

まず、記述方法そのものに関して検討してみると、各項目ごとに個別に説明があるのがセンチュリー、グローバル、アンカーである。ただし、アンカーでは tour と travel の項目において他の類義語参照の注記がなく、場合によっては journey と trip との相違が認識できない恐れがある。すべての項目において、互いの類義語参照の注記がほしいところである。その点、ユニコンでは、journey, tour, travel の項目では語義のみの記述にとどめてスペースを節約し、trip の項目にまとめて4語の相違を示してある。しかも、前3語の項目すべてに trip を参照するようにとの注記があり、学習者がすべての類義語を認知できるよう配慮されている。さらに、trip の項目における類義語の記述は別枠を設けてなされており、学習者の注意をひく構成となっている点も評価できる。ジーニアスもこれに似ていて、trip の項目に別枠にてまとめて記述がある。しかも、他の3語の項目においても個別に簡潔な説明があり、かつそれらすべての項目で trip の項目参照の注記があるので、いっそう学習者に配慮した構成といえるだろう。

次に、語義の記述の内容面に関して検討してみよう。第一に、journey と trip の違いであるが、「類義語辞典」にあるように、出発点に戻ってくるという前提があるか否かという点が重要である。前者はそうした前提がないから「旅」という訳語が一般的ななのであろうし、後者はそういう前提の上になつからこそ、「旅行」という訳語が可能となる。日本語でも、「旅」と「旅行」を比べた場合、後者には出発点に戻ってくるというニュアンスがある。とすると、訳語にまで差異が現れるわけであるから、この点はぜひとも注記されねばならないところである。にもかかわらず、このことに触れているのはセンチュリー、グローバル、ユニコンの3つだけである。しかも、センチュリーとグローバルでも、journey の項目において、必ずしも出発点に戻ることを

含意しないと言及しているだけで、trip との違いについては述べられておらず、ましてや trip の項目に、出発点への帰還が前提であるとの記述もない。学習者に両者の違いを明確に意識させるためには、このあたりの記述は必要である。その点、ユニコンでは類義語欄において trip と journey の説明を読めば、両者の違いを容易に理解することができる。

第二に、動詞の場合同様、名詞においても、語義の抽象的な説明に対する具体例の併記が問題となる。本例において、ジーニアスでは journey に関して「より形式ばった文学的な色合いを持つ」との記述があるが、学習者にとってこれをすぐに理解するのはやや難しいであろう。そこでアンカーのように、「しばしば『人生』にたとえられる」と具体的に記述すると、格段に理解しやすくなる。抽象的な説明は対象範囲を広く包含するという点では非常に有効であるが、学習者の視点に立った場合は、やはり具体例を併記することが望ましい。例えば、ジーニアスにおいては、「形式ばった文学的な色合いを持ち、比喩的に『人生(の旅)』の意で用いる」などとすると、充実した記述となる。

第三に、いわゆる和製英語<sup>10)</sup>との用法比較に関する記述についてである。アンカーでは、日本語の「ツアー」と英語の tour の意味範囲のずれについて言及している。和製英語はその大半が名詞であり、そのうちの多くが元の英語とは意味が程度の差こそあれ違った内容で用いられている。この事実を鑑みれば、特に学習辞典であるという性格上、「ツアー」と tour の意味のずれに関する記述は必要である。tour という語が、学習者である中高校生にとっては非常に身近な語であることも考えれば、なおさらのことである。しかしながら、この点に触れているのはアンカーだけである。日本語、とりわけ和製英語との比較を意識した記述が、他の辞典においても適宜望まれる。さらに類義語との関連という点から言えば、journey, trip, travel には基本的に日本語でいう「ツアー」の意味はないとの記述もなされれば万全であろう。

## 2.2. 形容詞類義語: fast, quick, swift, rapid

ここでは、各学習英和辞典における形容詞の類義語の語義記述を、名詞の場合と同じ手法で比較考察する。扱う語は、やはり学習者にとって基本単語である fast, quick, swift, rapid である。これらの語に関しても、学習者、とりわけ中高校生は漠然と「速い」というイメージしか持たず、互いの微妙なニュアンスの相違がはっきり認識できていない場合が多い。そこでまず、「類義語辞典」よりこれらの語義の記述を引用する。

「これらはすべて動きの早いことを表す形容詞だがどう早いかの問題なのである。fast は動く本体に焦点があり、rapid は動きそのものが早いことを言う。… quick は物事に対する反応がすばやいこと、仕事に手をつけるのが早いこと、また仕事が出来上がるまでに費やす時間が短いことなどを言う。swift はほとんど目にもとまらぬ早業で目的を完了してしまうことに使う。…fast と quick が、純アングロ・サクソン語で、口語的であるのに対し、rapid と swift はやや改まった、ものものしい言葉である。rapid も swift も常に肯定的で、よい意味のスピードに使う。…fast は swift と非常に使い方がよく似ているが、気持ちは fast が主観的にめっぼう急ぐことであるのに対し、swift は第三者が見て早いことに力点があると思えばよい。」<sup>11)</sup>

以上の詳しい記述からわかるように、これら4語は焦点の位置や動作の速さ、作業遂行の時間的短さなどの観点から、それぞれの意味上の相違が説明される。では、各々の学習英和辞典における記述はどうなっているであろうか。名詞の場合同様、あくまで「学習」英和辞典という観点から比較考察を行うこととする。

#### ジーニアス：

fast <人・物が> (持続的な運動・動作の速度が一定で)速い、敏速な、性急な rapid は「<動作が>速い」 類 quick, swift  
 quick <動作・行動などが>速い、迅速な、機敏な 継続的な動作が「速い」は fast, rapid  
 swift 《正式》迅速な、すばやい、つかの間の fast, quick より堅い語  
 rapid 速い、急な、敏速な fast, quick よりも堅い語

#### センチュリー：

fast 【揺るぎのない(速さの)>速い】速い、すみやかな、すばやい 類語 fast は運動・動作そのものより、それをする人や物に重点が置かれる quick, rapid, swift  
 quick 【動作、行動が】速い、急速な、すばやい 類語 quick は短い時間に、または瞬間的に行なわれる動作の機敏さを表す。 fast  
 swift 速い、すみやかな 類語 やや形式ばった語で、迅速さに加えてしばしば滑らかな動きを意味する。 fast  
 rapid 【流れなどが】速い、急な；すばやい、敏速な；急ぎの 類語 rapid は運動、動作そのものに重点が置かれることが多い fast  
 グローバル：  
 fast 【揺るぎのない(速さの)>速い】速い；す

みやかな、素早い 類語 「速い」の意味の最も一般的な語だが、運動・動作そのものより、する人や物に重点が置かれる quick, rapid, swift

quick 【動作、行動が】速い、急速な、素早い；即座の 類語 quick は短い時間に、又は瞬間的に行なわれる動作の機敏さに重点がある。 fast

swift 速い、速やかな 類語 やや形式ばった語で、迅速さに加えてしばしば滑らかな動きを意味する。

#### fast

rapid 【流れ、進行などが】速い、急な；すばやい、敏速な；急ぎの 類語 運動、動作そのものに重点が置かれることが多い。 fast

#### ユニコン：

fast (動き・速度が)速い、すばやい；時間がかからない( 類義語) 類義語 fast, rapid, quick, swift 共通する意味 速い(moving or able to move with great speed) fast は速く動いているもの・人に重点が置かれる。rapid は動きそのものに重点が置かれる。quick は「動き・反応などが敏速である」の意。swift は「動きが速いだけでなく軽やか」の意。

quick (速度が)速い、急速な( fast 類義語)；(動作・行動などが)すばやい、機敏な

swift 速い、敏速な、すばやい( fast 類義語)；つかの間の

rapid 速い、すばやい、迅速な( fast 類義語)

#### アンカー：

fast 速い、高速の；敏速な 類語「はやい」 fast は動き続けている物の速力が「速い」ことをいう。quick は動作などが「すばやい」ことで、1つの動作、または短時間の動作に用いる。rapid は速力にも動作にも用い、「好ましい速さ」のイメージがある。

quick (動作・物・事・人などが)速い、すばやい、急速な；すぐさまの すばしこい速さをいう fast 類語

swift 《文》速い、迅速な スムーズな速さを含みとする。 fast, quick, rapid

rapid 速い、敏速な 動き続ける人や物の速さにも、動作の速さにも用いる fast 類語

ではまず、各辞典における記述方法を検討してみよう。ここでは、ユニコンとアンカーの記述方法が目をひく。どちらも fast の項目に別枠を設けて、類義語に関する説明をまとめて記述している。しかも、残りの類義語すべての項目において、fast の項目を参照するようにとの注記があるので、学習者にとってはまとまった記述を参照することになり、非常に理解しやすいであろう。なお、アンカーでは swift については fast の項目における別枠内では言及されていない点で、ユ

ユニコンよりやや不十分である。他の辞典はどうか。ジーニアス、センチュリー、グローバルともに、個別の項目においてその形容詞独自の持つニュアンスを解説している。ジーニアスでは、各項目内において、他の類義語との簡潔な比較記述があるが、やはり学習者にとっては、ユニコンのように、一ヶ所にまとめて集中的に記述した方が、断片的にならずによりであろう。センチュリー、グローバルにいたっては、各々の持つニュアンスの説明はあるものの、類義語どうしの比較記述は皆無である。もう少し、学習者の便宜を考えた記述方法が望ましい。

次に、記述の内容面について、具体的に見てみよう。第一に、「類義語辞典」でも指摘されているが、fast と rapid の焦点の置く対象の違いの記述はあったほうがよいであろう。これについて各辞典を見てみると、おおむね記述がなされている。ただし、アンカーでは「速力にも動作にも用いる」とあるだけで、これでは「動きの速さ自体に焦点を置く」ということが学習者には伝わらないのではないだろうか。学習者が誤解なく確実に理解できるような記述を、常に吟味する必要がある。また、ジーニアスでは、fast に関しては、主語の選択制限的記述として「<人・物が>速い」というだけであり、rapid については具体的な記述はない。fast と rapid のこの相違については、学習者が英作文する際にも影響が出てくるので、必ず記述が必要である。

第二に、swift については、他の語と違って「非常に速く、かつその速さが素晴らしいと感じられる」という意味合いを含んでいるのであるが、この後半部分の肯定的な意味合いについては、ジーニアスを除いて「軽やか」「滑らか」「スムーズ」といった表現を用いてそのニュアンスを出している。スペース上の制約から、いかに簡潔に語のニュアンスを伝えるかが大きな問題となる。ジーニアスでは「つかの間の」という記述しかなく、これでは上述の後半部分の肯定的なニュアンスは伝わらないであろう。場合によっては、むしろ、否定的なニュアンスが伝わるかもしれない。その意味で、語の持つ微妙なニュアンスを簡潔な日本語で表そうとする場合は、その日本語の表現そのものを十二分に吟味しなければならない。

第三に、上記の点と関連するが、「類義語辞典」には、rapid、swift ともに常に肯定的でよい意味を持つと述べられている。swift については、上で見たように、ジーニアスを除いて一応はその感じを出している。しかし、rapid に関して、この点に触れているのはアンカーだけである。学習者はとかく、どんな場合でも無条件に「速い」という意味で rapid や swift を用いたりする

ので、rapid についても、この注記をすることによって、学習者の誤用を減らすことができると考えられる。

第四に、fast と quick が口語的、rapid と swift がやや文語的であるとの指摘は、使用域理解の観点からぜひとも必要である。しかしながら、これらすべてを記述しているのは、ジーニアスだけである。センチュリー、グローバル、アンカーには swift に関する記述がなく、rapid についてのそれは見当たらない。ユニコンにいたっては、両方ともない。口語的・文語的の区別は、使用域では最も基本的なものである。学習英和辞典である以上、最低限、これに関する記述は確実に欲しいところである。

以上、本節では、学習英和辞典における名詞及び形容詞類義語の語義記述に関して、実際に比較検討して問題点をいくつか指摘した。次節では、これらの問題点に対する改善試案を提示する。

### 3. 「学習」英和辞典での名詞・形容詞類義語の語義記述

本節では、とりわけ中高校生の英語学習に有用であるべき学習英和辞典の名詞・形容詞類義語の語義記述のよりよい方法を、前節で明らかになった問題点に対処するという形で、提案する。

全体的なこととして、類義語の比較記述に関しては、1つの語の項目に別枠を設けて視覚的にも注意を喚起し、その中ですべての類義語について、ニュアンスなどの違いを集中的に記述した方が有効であるということは、すでに澤(2003)で述べたとおりであるが、このことは、名詞や形容詞の場合にも当てはまる。他の語句の項目では、もっぱらその語義の必要最小限にして簡潔な記述のみにとどめ、そこで節約したスペースを上述の別枠における記述に充当すれば、かなり効率的で、しかも内容的には充実した記述が期待できる。その意味では、名詞においても形容詞においてもそうした方法を用いているユニコンは、非常に学習者の便宜を考えた構成をしているといえよう。

次に、記述の内容面に目を向けてみよう。第一に、英語の類義語どうして、日本語にした時に、明確に意味に差がある訳語が与えられる場合は、当該の英語の類義語どうしてもニュアンスに大きな差が出ている可能性が大きい。本稿の例では、journey「旅」とtrip「旅行」とがそれにあたるが、この訳語の違いが、出発点に戻ることを前提とするか否かという両者の違いを如実に反映しているといえる。このような場合には、英語を実際に用いる際に、双方の類義語の入れ替えはきかないわけだから、重要な点として記述すべきである。

第二に、語義の記述の部分でも、学習者の視点に立った具体例の併記ができる限り望まれる。具体例は辞典においては主として例文がその役割を担うが、語義の記述で抽象的な説明が含まれている場合は、それを補うものとして具体例の併記が必要である。それがないと、学習者、とりわけ中高校生は理解に支障をきたすであろう。本稿の例でいえば、journey に対し、「文学的・比喩的意味」という抽象的な説明に「(人生の)旅」などと具体例を併記しておけば、理解が容易になるというわけである。その上で、例文を併せて挙げておけば、理解は確実なものとなる。

第三に、第二点目とも関連するが、学習者にとって誤解のない記述を、当然心がけねばならない。語義の記述は、辞典の記述の中でも、最初に直接日本語に転換される箇所であるから、最も精度が高くなければならない。にもかかわらず、学習者に誤解を生むような曖昧な記述が時に散見される。本稿では、ジーニアスの swift に対する訳語「つかの間の」がそれに当たる。肯定的どころか、否定的なニュアンスを与えかねない。これでは、英和辞典をひいてもむしろ誤解が生じ、本末転倒である。スペースの都合上、どうしても簡潔な日本語で表す必要に迫られる事情はあるであろうが、あくまで学習者にとって誤解のない、明確な記述を深く吟味する必要がある。

第四は、いわゆる和製英語との比較記述に関してである。和製英語の大半は名詞であり、その多くの意味するところは、元の英語とずれている。これら和製英語の多くは、日常生活でもカタカナ語で浸透していて、中高校生の学習者も、当然日常的にこれらに接している。その意味では、和製英語との比較記述は絶対に必要である。元の英語の意味とのずれを認識しないまま、和製英語を平気で「逆英語化」して用いるという誤りを解消しなければならない。

第五に、使用域についての注記を確実にこなす必要がある。特に、その最も基本的なものである口語・文語、または略式・正式の区別の注記は絶対に必要である。単純に考えても、口語・略式はくだけた会話や文章において、文語・正式は改まった場面での会話や正式な文章において用いられるというように、使用される領域が全く違うのである。両者を全く意識することなく混用しては、コミュニケーションそのものに支障をきたすことだろう。本稿で挙げたような、日常頻繁に用いられる類義語どうしにおいては、このことは特に重要である。

以上、あくまで学習者の視点に立った、学習英和辞典における名詞・形容詞類義語のよりよい記述方法を考察した。

#### 4. まとめと今後の課題

本稿では、各学習英和辞典における名詞と形容詞の類義語の語義記述について、実際の辞典の比較検討を通して問題点を探り出し、それに対案を示す形で、よりよい名詞・形容詞の類義語記述の方法を提示した。動詞の場合とあわせて、今後の学習英和辞典の編纂の際の語義記述において一助になれば望外の喜びである。

今後の課題を最後に挙げておく。まず、多義語の語義記述の問題が残されている。ここでは、類義語の場合と違って、単独の語彙項目内での複数の語義の記述を、いかに効率よく理解しやすく行なうかを検討せねばならない。他に、語義の記述と絡めた文法説明の方法およびそれに添付される例文の検討も行なう必要がある。同時に、日本人学習者が犯しやすい誤用を正用法とともに示す記述の方法も考えるべきであろう。また、語の語源や構造そのものに着目した語義記述の方法も考察すべき問題である。これらの問題を将来的に順次検討していき、理想の学習英和辞典編纂への道程を示す予定である。

#### 註

- 1) 澤 泰人:「学習英和辞典における類義語の語義比較・動詞編」、宇部工業高等専門学校研究報告第49号 pp.63-69、2003.
- 2) 小西友七 他編:大修館、2001. 以下、「ジーニアス」と呼ぶこととする。
- 3) 木原研三 監修:三省堂、2000. 以下、「センチュリー」と呼ぶこととする。
- 4) 木原研三 監修:三省堂、2001. 以下、「グローバル」と呼ぶこととする。
- 5) 末永国明 他編:文英堂、2002. 以下、「ユニコン」と呼ぶこととする。
- 6) 山岸勝榮 編:学習研究社、2001. 以下、「アンカー」と呼ぶこととする。
- 7) 澤 泰人(上掲書) p.64.
- 8) 最所フミ 編著:研究社、1984. 以下、「類義語辞典」と呼ぶことにする。
- 9) 同書 pp.137-138.
- 10) 和製英語といっても、実際には様々なタイプがあり、それによって定義の仕方も変わってくるが、本論には直接関係ない事項であるので、ここでは「英単語がそのまま元の発音と似た発音でカタカナ日本語として定着し、微妙に意味範囲が異なるもの」と定義しておく。
- 11) 最所フミ(上掲書) pp.90-92.